Annual Report

2006年度　年次活動報告書

Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション

Contents

１　代表理事挨拶 1
２　海外活動報告 2
2-1 7月ヴァヌアツ共和国 2
2-2 9月ヴァヌアツ共和国 4
2-3 8月フィリピン共和国 6
2-4 9月フィリピン共和国 6
2-5 11月フィリピン共和国 7
2-6 2月フィリピン共和国 9
３　海外活動参加者の声 11
４　国際交流 15
4-1 運道具の寄付 15
4-2 こいのぼりと絵画交流 15
4-3 JICA 16
4-4 ヴァヌアツへのポスターの寄付 17
５　国内活動 18
5-1 大阪船場ロータリークラブ 18
5-2 その他の講演 20
６　学術報告 21
７　メディア 22
８　ジャパン　デンタル　ミッションについて 27
９　協力者名簿 28
１０　２００７年度海外活動予定 29
１１　役員 30

1　代表理事挨拶

日本の国際協力NGOの活動が本格化した時期を1980年代インドネシア難民救援期とすれば、すでに25年が過ぎました。この間にNGOに対する社会的な認知度も高まり、団体数も増えてまいりました。

我々、JDM（ジャパン　デンタル　ミッション）は、丁度この時期1983年から活動を始めました。ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の活動を通じて、発展途上国の人々の暮らしや人間性に触れることで、心の豊かさを感じ、シンプルな中にも自然な生活の持つ価値観を教えられました。特に若い人の中には活動を通じて生き方が変わる程の影響を受けた人も少なくありません。

我々は活動の中で学んだ事は、固定観念を持たないで、しっかりした目的を持ってボランティアを行う事が必要だと思います。一般的に『物を寄付する事＝援助』だと思いがちですが、彼らにとって本当に必要なことは、自分達の力で自分達の地域を良くしていく事、つまり自立です。

我々の目標は、彼らが医療に対して自立できるように様々な方面でサポートしていくことです。

一人では、何も出来ないけれどもグループだから出来る事がたくさんあります。仲間と多くを語り合ってこそ多くの事を学ぶことが出来ます。

参加者一人一人が活動を通じて、色々と体験することにより、社会というものを本当に理解できるのです。そうした人の輪を着実に広げていきたいと願っておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力の程宜しくお願い致します。

代表理事
沢田　宗久

2　海外活動報告

2-1　7月ヴァヌアツ共和国

期間　　2006 年 7 月 8 日～7 月 17 日

参加者

(上段左から)清水宏充(V)、安尾明徳(V)

(中段左から)羽原佳子(D)　大西富子((H)　川田昌美(V)

原　順子(H)

(下段左から)近藤藤乃((H)　田代博一(V)　澤田宗久(D)

*歯科医師(D)　歯科衛生士(H)　ボランティア(V)

今回出発に向けて予てより作成を希望しておりました、歯科啓蒙用ポスターが完成しました。 ハグルマ封筒株式会社様のご協力で4000部以上のポスターを印刷していただき、無事にヴァヌアツの政府機関へと手渡しができました、また行く先々の小学校でも歯科教育ポスターとして、掲示することができました。

歯ブラシは、診療所に治療に訪れた島民の方々に家族の人数分を渡しました、タンナ島には歯科医師は一人もいませんので、歩いて5時間もかかって来てくれる島民もいます、ご寄付頂いた医薬品もすべて、ラナケル病院に寄付又は管理して頂きました。各小学校には、健診をした子供全員にハブラシが行き渡りました。ポスターを見せながら、ブラッシング指導をしている私たちを見る子供達の目は真剣そのものです、すごい集中力で一生懸命磨いてくれていました。うがいをする水すら全く無い状態でしたが、それでも嫌がる子供はいませんでした。

重量のゆるす限りの衣料品も現地に届けることができました、皆様から頂いた衣料品は現地の特に火山地帯の最も届きにくいと思われる小学校に届けました、特にサッカーボールの寄付を受けた子供達は大喜びでした、ボールは蹴りたいけれど、子供達はバナナの葉を固く丸く上手に32面体に編んだようなボールでサッカーをやっていたのです、本物のボールを見た彼らの喜びは想像を絶するものでした。 今回も沢山の食料品のご寄付がありました、ヴァヌアツではタロイモが

主食ですが、滞在期間中の食料は重要な要素です。皆様から頂いた食料品は調味料をはじめ、レトルトのカレーや麺類・・・ボランティアの料理担当の協力のおかげで、活動の活力となりました。 ヴァヌアツでは自炊ですが、その食料のおかげをもちまして毎日のハードな活動を乗り越えJDMの原動力となることは言うまでもありません。心より感謝申し上げます。

(タンナ島)での活動報告

7月8日(土)

21:45　関空より出発

7月10日(月)

二日かかりブリスベン経由ポートヴィラを経てタンナ島に昼着。午後より診療にとりかかる、オーストラリアより眼科医もラナケル病院で診療開始。

Dr澤田と川田さんはもう一泊ポートヴィラに宿泊し、ヴァヌアツ政府との今後の学校歯科保健事業や母子歯科保健衛生事業などの協議、会議を重ねる。

7月11日(火)

Fatukai小学校に健診と文化交流に行くメンバーとラナケル病院の一角で診療メンバーとに別れて活動、今回

はDrが二人だったのでDr羽原が病院に残った。
本格的診療が始まって人だかりの中、田代さんがうまく患者さん達を振り分けて下さり大助かり。午後より衛生士2名、ボランティア2名と現地の衛生士（であろう・・・）ティ

ミー氏と運転手一人の6名はトラックでLoueru小学校に健診とTBI（ブラッシング指導）に行く。

7月12日（水）

ラナケル病院での診療はどんどん人が増えるが、今回は技工士が居なくて全く入れ歯を作成できなかった為、がっかりして帰る患者さんには申し訳なかった。前日同様6名はAM中にLenakel小学校、PMからIapilmai小学校に早朝5時よりトラックで出発し、原さんと田代さんが早朝より作ってくださったオニギリと卵焼きのお弁当を持って、約150名の子供達の健診とTBIをし、帰路につく頃は夕焼けがきれいであった。

7月13日（木）

診療はDr二名が朝から晩まで待っている患者さんのために仕事を進めていた、遠くから高校生が団体で（約20名）健診をして欲しいとやってきた。歯に関心をもってくれていることに感動する。前日同様、小学校健診班6名はAM中にLaviero小学校、PMよりDippoints小学校に出向く。何時間もかけて、山道をほこりまみれになりながら、地道を進むのにも少しは慣れたが、健診中もしばらく体は揺れている。最終の小学校では歯ブラシ以外に持って行く物の底をついてしまい、わずかな衣類とタオルとサッカーボール1個となったが、そのサッカーボールに子供達はどれくらい喜んだであろう。

7月14日（金）

診療最終日となった初日のような人だかりは少なくなったが、患者さんは途切れることなくやってきた。15時まで診療を続けその後在庫の確認をしながら後片付けをし

た。

7月15日（土）

最終の後片付けで自分達の宿泊していた宿舎と冷蔵庫などを片付けた。今回はシャワーもあったので気持ちよく汗を流すことができた。食料も無駄なく毎日ご馳走を食べることができたのもVO方々の涙ぐましい程の工夫と愛情が毎日のエネルギーとなった。オーストラリアの眼科医とのソーメン昼食会をし、オーストラリアのロータリアンとの出会いも私達の仕事を楽しいものにして頂だいた。昼にタンナを後にポートヴィラに向かう。

7月16日（日）

ポートヴィラでのつかの間の自由行動、昼の便でシドニーに向かい夕方シドニー着

7月17日（月）

シドニーより9：50発の関空行きに乗る。21：00全員無事関空着！

滞在期間中のラナケル病院の簡易歯科診療所に来院された
患者数164名
治療した歯牙の本数104本
予防処置　18名　　入れ歯調整　1名
健診と集団ブラッシング指導をした小学校　6校（全生徒数　約450名）

今後の活動についても、肩の力を抜きながらも気を抜かずに、やっていきたいと思います。
今回の活動に際し、日本留学中のジュディスさんにご協力頂きました。
また、いつものことながら、トッペル君・エマさん・サラマット君にも協力をしていただきました。

2-2 9月ヴァヌアツ共和国

期間　2006 年 9 月 9 日～9 月 16 日
参加者メンバー
(上段左から)近藤公英(D) 南富雄(T) 吉竹弘行(D)
(下段左から)上村美佳(D) 吉竹ルカ(D) 長谷川雅代(D)
山村千栄(D)

9 月 9 日

21:30 に例年通り関西空港を出発しブリスベン経由で翌日 13:40 にポートヴィラに到着。

9 月 10 日

ポートヴィラに到着後、メラネシアンホテルにチェックインし、その後翌日からのマレクラ島での活動に備え、食料品や日用品の買出しに行く。新しいスーパーマーケットが出来ておりヴァヌアツの進歩に少し驚きながら翌日からの活動に備え早めに就寝。

9 月 11 日

7:30 発のノルスープ行きに搭乗すべく空港へ行くが様子がおかしい。空港内で訊くとフライトキャンセルとの事。ノルスープ空港で我々を待ってくれている協力隊の井出さんに連絡し、マレクラ島での活動の変更をアレンジしてもらう。同時に彼からチャーターフライトの方法を聞いたので、一度ホテルへ戻り部屋を一応確保した後チャーターフライトの交渉に出向いた。しかし料金的にとても折り合わず、翌日の 7:00 発のノルスープ行きに乗る事になった。朝早くから空港に行きやる気満々であったのが出鼻をくじかれた感じになったがこれもヴァヌアツと諦めることにして、ヴィラで出来る仕事を探しローリーと澤田先生からの要望等に関して話し合うことにした。

9 月 12 日

7:00 にポートヴィラを予定通り出発し、8:00 頃にノルスープに到着。その後、昨日の遅れを取り戻すべく 2 組に分かれて病院での治療と学校検診で活動した。
現地の井出さんが治療に関しては病院での交渉役をして下さり、義歯作製の数や患者の振り分けなど献身的な協力のおかげで仕事がはかどった。
学校検診はもう 10 年になるせいか、学校側も受け入れがスムーズでカルテの配布も手際よく行われ、各校とも予定より少し早く終えることができ、病院の仕事の手伝いが出来た事は良かったと思う。

9 月 13 日

終日、病院での治療と学校検診に分かれて活動。歯科医師と衛生士は治療と検診を交代しながら行えたが、技工士の南は病院にカンヅメになりその上夜もゲストハウスでの仕事とその頑張りには頭の下がる思いがした。
また、今日はウリビブ小学校の検診の際にジョン・カルキ

氏と再会を果たす事が出来て感慨深いものがあった。彼の歓迎振りは相変わらずで我々に対する彼の想いの強さをひしひしと感じさせられた。

9 月 14 日

15;50 にノルスープを出発するまで出来る限り活動。病院での治療は義歯の調整がメインとなった。それでも義歯作製を希望する方が多く、ただただ恐縮するのみ。

検診は最終日は又井出さんのお手伝いで大変スムーズに行われ、予定通り午前中で終了する事ができた。夜、ポートヴィラ着。空港からメラネシアンホテルに向かう途中、かつてマレクラで大変お世話になった故エドモンドの娘さん夫婦が働くヴィラノーススクールに立ち寄り面会をした。時間もあまりなく、挨拶程度で別れたが夜遅く彼らの方からホテルを訪ねてくれ我々に土産も頂いた。カルキにしろエドモンドにしろ長い付き合いの中で培われた情の素晴らしさには感慨深いものがあった。

9 月 16 日

8:00 にポートヴィラを出発しシドニー経由で 9 月 17 日に関西空港に帰国することが出来た。

ヴァヌアツ豆知識

2006 年 7 月 29 日朝日新聞掲載記事

第3種郵便物認可

地球にやさしく幸せに暮らす国
バヌアツ1位 日本は…95位
英財団報告

【ロンドン＝稲田信司】世界で最も地球にやさしく、幸せに暮らす国は南太平洋の島国、バヌアツ共和国――。英国のシンクタンク、ニュー・エコノミックス財団（NEF）は国際NGO「地球の友」と協力し、独自の「幸せ地球指標（HPI）」に基づいて178カ国をランク付けした初の報告書を公表した。主要国は軒並み下位に位置づけられ、日本95位、米国150位。最下位は独裁政権下で貧困とエイズに苦しむアフリカのジンバブエだった。

HPIは、各国の世論調査に基づく「暮らしの満足度」に「平均寿命」を掛け合わせた指数を、二酸化炭素（CO_2）の排出量などを基に数値化した「環境への負荷」で割って算出。NEFは「自然環境を害することなく、どれだけ幸せに暮らしているかを示す新しい指標」と説明する。米国とドイツは満足度と平均寿命がほぼ同じでも、「環境への負荷」が少ない独が81位と上回った。

バヌアツは新潟県とほぼ同じ面積で80以上の島からなる。人口は約21万人。長寿国ではないが、手つかずの海岸や豊かな熱帯雨林など、自然に恵まれた環境で暮らす。

首都ポートビラでインターネット新聞を発行するマーク・ローウェンさん(49)は朝日新聞の電話取材に「驚く結果じゃないし、あまり宣伝したくない」と語り、観光客の増加で環境に影響が出ることを心配していた。

2-3　8月フィリピン共和国

期間　　2006 年　8 月 9 日～17 日

参加メンバー

歯科医師　山田　敦

協力者（島民）　トッペル君（助手）

ジュディスさん（助手兼通訳）　エマさん

（カルテ兼受付）

活動内容

8 月 10 日

天候不良による高波の為、深夜 1 時に現地到着。患者 6 人を診察・治療。

8 月 11 日

午前中に診察準備に入り、午後より診療開始。患者 38 名のチェックアップ。

8 月 12 日～15 日

チェックアップ　CR充填　Ext（抜歯）　義歯修理

チェックアップのみやあまり強制的な治療は好ましくないと考え、状態だけを診ることにした。 その中で、自発的に治療を望む人は、治療を施した。

8 月 16 日

器具・器材を片付け、材料のチェックを行った。

8 月 17 日

帰国。

総括として、

現地では緊張感のある中にも、ゆっくり・ゆったりと時間が流れました。

2-4　9月フィリピン共和国

期間　　2006 年　9月 16 日～9月 20 日

参加メンバー

（上段左から）沼田有加(H)　槌道あゆみ(H)　松谷知美(V)

大平聡子(V)　上崎秀美(D)

（下段左から）富田真仁(D)　小林恵美(H)　今本祐紀(D)

鍋島呂美(D)

（写真右）東京から参加　伊藤晴夫(V)

活動内容

9 月 16 日

マクタン空港では先に来ていた伊藤さん（vo）がスタッフと一緒に出迎えてくれました。2 月の際に空港でトラブルあったため、ラプラプ市長の承認書を携えましたが今回は問題ありませんでした。18：30頃にカオハガン島に到着。

夕食後ミーティングを行いました。

崎山夫妻は台湾に出かけているため、青木さんとの話し合いが主となりました。

今回は歯科技工士の参加者がいないため、新規の義歯作製は行わず、調整と修理のみ対応することとなりました。

9 月 17 日

9：00より全員手分けして、診療準備にとりかかりました。

老朽化により 8 月からバランガイホールが使用禁止になってしまったため、図書館を診療本部としてチェックアップおよび抜歯を行い、クラフト小屋で充填と義歯修理を行うことにしました。9 月末に教会が完成するので次回からの活動は教会を使用する予定です。 午前中から診療開始。診療所が 2 箇所に分かれたため機材の場所がわからず現場はやや混乱しました。また義歯の修理は

預かり後日取りに来てもらうことになりました。

9 月 18 日

午前中、学校訪問は DH 槌道をリーダーとして、DH 沼田、VO 大平、VO 松谷で行いました。今回は澤田先生不在のため検診は行わず、TBI、媒体による口腔衛生指導を行いました。紙芝居に対する子供たちの反応がよいため今後は『痛くなる前に JDM に検診してもらおう！』という内容に変えていくとよいのではないかと思います。恒例の海岸での染め出しブラッシングでは上級生が下級生の面倒をよくみてくれたので助かりました。先生はというと自分のブラッシングに掛かりっきりで・・・。

9 月 19 日

活動最終日なので午前中は診療、午後から在庫整理です。

9 月 20 日

天候にも恵まれ大きなトラブルもなく 20:00 頃関空へ到着。

今回の活動で気になった点

1、暇だった

午前中は忙しいが、午後は暇。昼寝しているのでしょうか？子供が遊びにくるが学校でチェックアップすると思っているので、診療させてくれなかった。

2、カオハガン島民の患者が少ない

パンダヌンやパンダナンその他の島の患者が増えているがカオハガンの患者が減っている気がする。島民の関心が薄れてきてるのではないか心配です。

3、駄菓子屋が増えてきている。

4、小児用の薬を欲しがる親が増えてきている。

5、エアタービンの調子が悪い（毎度のことですが・・・）

午後は夕方よりフリータイム。今回 Vo メンバー少ないため運動会は中止しました。ほとんどのメンバーがシュノーケリングを堪能し、一部の人たちはトッペル君をガイドにパンガナン島へ歩いて遊びに行きました。

2-5 11月フィリピン共和国

期間　2006 年 11 月 21 日～11 月 26 日

参加メンバー

（上段左から）

長井美紀(V) 芳川栄治(D) 森千代美(H) 今本裕紀(D)

鍋島呂美(D) 植田寿子(V)

（下段左から）

大西富子(H) 京谷繁美(V) 沢田宗久(D)栗山雅行(V)

筒井文子(V)

*歯科医師(D) 歯科衛生士(H) ボランティア(V)

活動内容

11月21日(火曜日)

18:30頃にカオハガン島に到着。夕食後19:50よりミーティング。 今回は子供の予防を中心に診療を進める。

明日より学校検診を先に進めながら、子供達をチェックアップし、治療が必要な子供は強制的に教会まで連れて行き、治療の継続管理を推し進める予定。

11月22日(水曜日)

9:00より全員手分けして、診療準備にとりかかる、早朝より、沢山の島民が教会に集まっていた。受付・抜歯・充填・義歯のスペースはそれぞれ教会の屋根の下に十分なスペースをとることができた。新しい場所であるため、配置や治療の流れに戸惑うが、広いスペースと風通しが良いのであまり暑さは感じられなかった。

11月23日(木曜日)

沢田、大西、栗山、京谷の4名は10:00より学校健診に向かう。

生徒数は約80名。学校健診が前回抜けていたので、一人一人に時間をかけて、できるだけ予防処置もその場でやるようにした。教会に殆どの子供を何らかの処置に向かわせた。その中でも13名もの治療不可能な子供達がいた。混合歯列期であるためだが、とても残念でならない。

学校健診途中で、他の島よりハイスクールの学生達が約10名船でやってきた、帰りの船の時間があるため、一時健診を中断し、学生を先に検診・治療する。帰る際に生徒達が感謝の気持ちを大きな手紙に書いてスタッフに渡してくださった。嬉しい出来事であった。

11月24日(金曜日)

前日の検診で6年生が残っていた為朝10;00より健診を続ける、抜歯や充填の本数の多い子供達を滞在中に継続して治療に来させるために、チェックの子供達を教会まで連れてくるようにした。

前日に引き続き沢山の患者が並ぶようになった、カオハガンの島民でない方が目立ってきたのでカルテをもう一度、問診段階で島の名前を明記してもらうようにした。

夜は20:00より教会に島民を集め、タウンミーティングを行った。おやつの与え方や歯磨きの効果などの話をし、人形劇を行った。通訳をしてくださった崎山さんやチナさんのおかげで大盛況に終えることができた。JDMの活動の意図を島民に知ってもらういい機会であった。

11月25日(土曜日)

9:00より荷物の在庫管理調査とパッキング。12時まで全員総出でそれぞれ手分けして、在庫チェックをした。15:00までフリータイムとなり、その後は恒例の大運動会。プログラムは、二人三脚・リレー・玉入れ・綱引き。最後の綱引きで綱が切れるというアクシデントがあった。

今後の活動について

- その日の活動内容の報告
- 学校で検診後、すぐに診療に来てもらう。
- 在庫確認は確実に行う。
- カルテに島名を記載する。
- 虫歯の無い人を表彰する。
- 島民とのミーティングを行う。

感想

- EXT、CR の順番カードを渡してスムーズに治療が行えた。
- 今回、残念なことは，技工士さんの参加がなかったので、入れ歯を心待ちにしていた患者さんに対応できなかったことである。

2-6　2月フィリピン共和国

期間　　2007 年 2 月 6 日～2 月 12 日

参加メンバー

（上段左から）

中辻孝一(T) 河内光明(T) 上崎秀美(D) 沢田宗久(D)

平田俊彦(D) 山本喜代(V)

（下段左から）

大西富子(H) 寺島聡子(H) 倉橋朋子(H) 倉橋寿会(H)

遠藤佐知子(H)

伊藤晴夫(V) 東京から参加

*歯科医師(D) 歯科技工士(T) 歯科衛生士(H)

ボランティア(V)

活動内容

2 月6日（火曜日）

定刻に全員集合、通関などたいしたトラブルもなく無事通過。

ビーチサンダルゆえにウニを踏んでしまい、負傷者 1 名。足元の保護にもっと注意を。

2 月7日（水曜日）

前回から教会を診療所に使えるようになったが、第 1 水曜はミサが行われるので、午前中はキルト小屋の横で、邪魔にならないようにデンチャーの印象を行う。

午後から本格的に・・・・・・と思いきや、電気のトラブルが発生し、治療ユニットは使用できず抜歯とデンチャーのバイト採得。小学校の健診はほぼ終了。

2 月8日（木曜日）

小学校の残りの健診と、追跡調査児童の口腔内写真撮影が加わり、電気のトラブルも解消して、治療は大忙しで一息つく間もなくフル回転。リーダーとして全体の状況を把握しないといけないのに、自分に回ってきた患者の治療で精一杯。デンチャー作製も佳境に入り、明日のセットに向けて完成品もできてきた。

2月9日（金曜日）

技工士は7時からの早出でデンチャー作製。朝食も出前となる。午前中、小学校でのブラッシング指導と予防教育班以外は、デンチャーセットに専念。しかし予定外の技工が入ってきたりし、なかなかデンチャー関係の需要は高いようだ。

午後からも、昨日に輪をかけたように忙しくなり、4時からの小学校の先生との協議も、開始を遅らせなくてはならないようになった。 5時になっても長蛇の列。しかも他の島からの人がほとんどなので、6時半までかかったが、何とか全員処置完了。懐中電灯の明かりだけが頼りの治療となる。

全員クタクタ、ヘトヘト。しかし、夕食後 JDM－Beauty－Sisters は、明晩の島民とのミーティングでの演目のリハーサルと元気一杯。

2 月10日（土曜日）

治療最終日。いつもなら割と余裕のある日のはずだが・・・・・・、デンチャー修理などもあって技工部門も開店し、またまたフル回転。当初の予定数以上の作製とな

った。

午後から片付けと在庫整理。4時過ぎてから、やっと心と体に余裕ができ、ひと泳ぎしたりドラム缶風呂（通称：カオハガン温泉）にはいったりして一息ついた。

8時から教会横の広場で島民とのミーティング。ベロ体操、幼児のブラッシング方法の寸劇、JDM－Beauty－Sisters と伊藤さんによる歌とダンス(世界にひとつだけの花：SMAP)などで大いに盛り上がり、約1時間で終了。

2月11日（日曜日）

午前中はフリータイム。午後からはスキューバダイビングと、釣りに分かれての海遊び。釣果は・・・・・。夕食に一人一尾。

4時からポンドク(砂州)にて恒例となった運動会。4種目(二人三脚、リレー、玉入れ、綱引き)楽しくにぎやかに、時々無秩序に。最後に番外として、JDM＋子供組 VS 大人の島民＋崎山氏の綱引き。変に意地になり、久しぶりに童心に返った。

2月12日（月曜日）

少し早い目に出発して、セブ空港の途中で市場に寄り、屋台で朝食を摂り、パンを購入。

朝の庶民の賑わいをちょっぴり体験できた。

19時10分関空着。19時50分記念撮影後、無事解散。

反省と今後の課題など

- 体調を崩したスタッフがいたが、早めに休憩したので半日で回復した。
- 自己管理も必要だが、無理をしないのも大切。第1目標は無事帰国です。
- 教会内での治療台の向きで、配慮に欠ける点があった。
- 電源や動線との関係があるが、次回の活動までに協議しておく必要がある。
- 保存不能＝抜歯で今まで治療してきたが、最近欠損部位へのデンチャーの需要が大きくなっている。しかし作製個数に限りがあるので、より多くの技工士の参加が望まれる。次回分で8名の予約待ちである。
- 予想を上回る患者数で、滅菌ガーゼやグローブなど品切れになる材料が出た。
- カオハガン以外の 9 島からの受診があった。ありがたいことである。
- 空港での機内持ち込み品や、ボディーチェックはますます厳しくなってくるので、慎重に対処して欲しい。うっかりとか、バレなければ・・・は、チームに迷惑がかかります。
- アルコールに関して今回は自主規制としたが、全面禁止も大人気ないので今後もこの方針で行けるように望みたい。実質 5 日間で約 100 本というビールの数が適正なのかどうかは、会計から見ても(別料金です)別の問題を含んでいる。
- 参加費については、基本的に 5 日間で 1 万円ですが、一食 850 円なので、今回 7 日間ではかなりの赤字でした。2000円 X 日数が適当なのかと思う。保険料の実額負担とあわせて今後検討すべき。
- 島民から食材を買うのも一長一短。シャコは X、イカとアワビは○です。無駄遣いしないように。
- 広場から少し母屋よりで上を見てください。鯉のぼりが2匹泳いでいます。

最後になりましたが、チナちゃんお手伝いありがとうございました。元気な赤ちゃんが生まれますように。

3　海外活動参加者の声

清水宏充（ボランティア）

2006年7月　ヴァヌアツ　国外活動日記

7月9日

今日、オーストラリアからヴァヌアツ共和国に入国して、最初に感じた事は人が皆、笑顔で暮らしている国なんだという事でした。出会う人々が笑顔で接してくれ、あまりそういった環境に慣れていない僕は、戸惑ってばかりでした。いつも他人と接していても、上辺でしかつきあえないコンプレックスを持って自分がよくわかり反省ばかりでした。明日からは、自分から行動を起こして他人ともっと親密な人間関係を築いていける様に努力して行こうと思いました。

7月10日

タンナ島での1日が終了して感じた事は、自由な国だと思った事と人の事を好きになれそうかも、と思ったことでした。ここで生活している人々は、皆人なつっこくほとんど英語が話せない僕に必ず笑顔をむけて接してくれました。反省した点は、ボランティアで来ているのに、何も勉強せずにきてしまい、ほとんど何の役にもたたずに1日目が終了してしまった事です。せめて来ている間は、覚える事はしっかり覚えて足手まといにだけならない様に取り組んでいこうと思います。

7月11日

タンナ島での活動が2日目で終了して昨日より明日の活動を楽しみにしている自分がいることに気づきました。初めて学校に行き現地の子ども達をみた時、すごく自分たちが来たことに純粋に喜んでくれたことに、感動して驚きました。ヴァヌアツにきて現地の子ども達と交流がもてて、本当に来る事が出来てよかったと思いました。もっともっと頑張って成長した自分を両親や会社の人達に見せれるようにしていきます。

7月12日

タンナ島での生活が3日目終了して感じたことは、日本とここでの違いです。今までも頭ではわかっていましたが、色々な現実を見るたびに凄くカルチャーショックを感じるようになりました。今日行かして頂いた学校は、山の中に村と小学校しかない様な場所で僕からしたら、不便としかいえないような場所なのに、そこで生活している人々は笑顔でプレゼントしたサッカーボールで遊んでいる子ども達の顔や僕たちが帰る車を何百メートルも走って追いかけてくれた子ども達の顔がすごく印象に残っています。そして今日帰ってきてから現地の子ども達と遊んだのですが、子ども達が帰る時に僕に、good-bye friends と言ってくれた事が本当に嬉しかったです。

7月14日

タンナ島での生活が残り1日になって僕が初めのころ感じていた不安や戸惑いが「何だったのかな」と不思議に感じる

様になっていてそれどころか明日はここの部分をもっと自分なりにこうしてみようというような1日の反省と明日の目標をたてる自分がいました。日本では当たり前に仕事や生活をしていてこんな気持ちになったのは初めて社会に出て新入社員として色々なことに新鮮な気持ちで取り組んでいた自分以来でした。僕は今この様な環境に送り出してくれた両親や会社の仲間、そして僕に関係してくれている人達に感謝の気持ちでいっぱいです。明日一日を絶対に一つの悔いも残さず一生懸命やりきります。そして日本に帰ったらこの感謝の気持ちを行動で皆に示して成長した自分を見てもらおうと思っています。

7月15日

タンナ島での活動が全て終了して僕が感じていることは、少しの後悔とこれからの未来に向けて進んでいこうとしている自分の意志です。少しの後悔というのは、何故こんなに素晴らしい環境にいるのに自分から踏み込んで行動をおこせなかったかという事です。理由としては、言葉の壁や見知らぬ人達との生活等、色々なことがありましたが、やはり積極的になれない自分がいました。但し、今までの自分と違う事は、単に反省だけで終わるのではなく、今回は、失敗したが次はどんな内容の事でも、最初から積極的に本気で取り組んでいこうと強く思えるようになりました。今は進歩したと思える自分で日本に帰り、この気持ちを継続したまま、生活や仕事に取り組んでいこうと考えています。

安尾明徳（ボランティア）

感想文

初めての海外、それもヴァヌアツ共和国という文化や色々なことがこれまでの生活とは異なった地と言うことで、最初は色々な不安や期待があった。どういう人々がいるのか、どういう生活をしているのかなどの興味もあった。

最初に到着したヴァヌアツ共和国の首都、ボートヴィラ着いてすぐにいろいろなものに目をやっていた。しかし、はじめに頭にあった想像とは異なり車も走っていて、人も沢山いてとそんなにカルチャーショックはなかった。そしてボートヴィラで 2 泊した後、活動の地であるタンナ島に到着した。

そこは、それまでいたボートヴィラと違い建物は少なく、どこまでも自然が広がっている自分が最初に想像していたものに近いところであった。トラックに乗り、でこぼこ道をゆられ、宿舎についた。人や物、景色にカメラを向けたくなった。そして現地の子ども達の歯を検診するという事でトラックに乗り学校へ向かった。そして、検診している様子を写真におさめていた。何度もカメラを向けているうちにどうやってコミュニケーションをとっていいのかわからなかった子ども達とも、次第にうちとける事ができた。凄くきれいな子ども達の笑顔に接しているうちに、自分の顔も笑っていた。夜になると日本では見ることの出来ない満天の星空にであった。初めて南十字星もこの目で見ることが出来た。日が昇るとどこまでも見渡せる景色に感動した。そして子ども達とサッカーなどをして遊んだ。自分の伝えられる言葉をごくわずか

だが、それでも子ども達と一つの事をする事で何か繋がりあえるものがあった。それは自分の中で一つの財産となった。
仕事面では自分は本当に JDM の仕事が出来ていたのかと考えると少し満足できていない自分がいます。先生をはじめ、みなさんの足をひっぱったのではないかと思います。しかし、今回の旅は自分にとっていい経験になりました。約10日間という短い期間でしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

2006年7月　ヴァヌアツ　国外活動日記

7月9日

ヴァヌアツ共和国へ向け約8時間のフライトは少し身体に疲労を与えるものだった。ブリスベンからボートヴィラに降りた時、初めてヴァヌアツ共和国にやって来たという実感が湧いてきた。これから始まる5日間の活動に、精一杯取り組んでいこうと思う。

7月10日

今日は、9時から政府の人たちと、14時からはジョンカルキさんと18時30分からは江畑さんと3回のミーティングに参加した。話を聞いていて思ったのは、ボランティアをすることの厳しさ、重大さである。特にヴァヌアツを含み、海外で文化も全く違う地で、このような活動をすることは、本当に重大であると自分の中に刻まれた1日だった。

7月11日

今日は初めてタンナ島にやって来た。空港を出て車で島の奥へ入って行くと、見たこともない広大な自然に圧倒された。午後から島の小学校に111人の生徒の歯の検診に行った。言葉も文化も違う生徒達も様子をうかがっていたが、目をあわすとすぐに笑い返してくる生徒達に自分も知らないうちに笑っていた。夜になると、初めて見るタンナ島の星空に見とれていた。

7月12日

今日は午前中に1校午後に2校の検診に行った。八尾市の小学生が描いた絵や折り紙を渡した。凄く喜んでいる様子が伺えた。午後からは、約1時間の道のりをかけて学校へ向かった。道がすごくボコボコしていて必死の思いでトラックの荷台で踏ん張っていた。ようやく学校に着いたが、もう生徒のほとんどは帰っていたが検診をしているうちに、多くの生徒が戻ってきてくれた。学校に着くのが遅れてしまい少し迷惑をかけてしまったが、無事検診も終わり又トラックにゆられて宿舎へ戻った。今日はちょっと長い時間トラックにゆられていたせいか、少し疲れた。

7月13日

今日は、火山の近くにある学校へ検診に行った。学校に入ると他の学校と違い地面は火山の灰で黒ずんでいた。ちょうど昼休みだったので、校舎を見てまわっていると日本人が建てた校舎があった。中に入ってみると、イスや机、黒板にも日本の国旗やJAPANと書かれたシールが貼られていた。検診も終わり宿舎へ帰ってきて少し仕事をし、地元の子ども達と一緒にサッカーをした。言葉も文化も違う世界で皆、輪になって遊ぶのは、自分にとってとても新鮮だった。

7月14日

今日は午前中に仕事を終え昼から後かたずけや在庫チェックそうじなどを行い、夕方から火山へむかった。約1時間半の道のりで火山へ向かった。近付いて行くにつれ、人気もなくなり地面の色も変わってきた。火山灰や溶岩がゴロゴロと転がっている広野を車で走っている時は、何か違う世界に来たようで不思議な気持になった。火口付近に近付き車を降り数分、山を登るとようやく火口が見えた。雷のような地響きとともに火口から溶岩が噴出していた。世界一火口に近付けるということもあり想像以上の迫力だった。

山本喜代（歯科衛生士）

カオハガンでの活動を終えて

今回初めて JDM の活動に参加させて頂きました。初めは、日本とは違う環境と歯科治療において、自分がどこまで出来るのか、本当に役に立てるのかと大きな不安でいっぱいでした。

でも島に着いて、いざ活動が始まると、島の子ども達の人なつっこさや元気いっぱいの笑顔に私の方が癒されて不安はフッとんでいきました。

活動の初日からたくさんの方が診療に来られて、忙しい日々ばかりでしたが、その分たくさんの人と出会い、治療のお手伝いが出来たことを嬉しく思っています。島のボランティアの方や観光に来られていた日本人の方にも手伝って頂き、とても助けられました。

島民との集会や、子ども達との運動会も新鮮で、最終日に子ども達がくれた歌のプレゼントは嬉しくて嬉しくて号泣してしまい、日本で味わえない様な喜びや感動の連続でした。

沢田先生が「素直に感じれる心があるんだから、自身を持って頑張ればいい」と言って下さって、何事にも頑張れる気がしました。帰国後、仕事中に気付いたのが、自分の声の大きさです。いつもと同じようにしているつもりだったけど、いつもより大きな明るい声で話していました。それで本当に心から元気になったんだと実感しました。

一週間という短い期間でしたが、島での体験は私にとって大きな肥やしになっています。そして、私には目標が出来ました。それは1回でも多く JDM の活動に参加させて頂くことです。その目標に向けて仕事にも気合いが入っています。

喜びや感動はもちろん、心の健康や目標まで見付ける事が出来たこの活動にとても感謝しています。ありがとうございました。また、初参加にも関わらず温かく迎えて下さったチームの皆さん本当にありがとうございました。そしてこれからも宜しくお願いいたします。

歌とダンスで島民を盛り上げる山本喜代さん（写真右から２人目）

4　国際交流

4-1 運道具の寄付

文化交流の一環として毎回、ヴァヌアツの学校にサッカーボール、運動具の寄付を行い、体育の育成を図っている。そのボールで子供たちが楽しそうに遊んでいる。

4-2 こいのぼりと絵画交流

（写真左上）

2007年2月にカオハガン島に日本から、こいのぼりを持っていきました。現地の椰子の木にぶら下がって、気持ちよく泳いでします。

（写真左下）

6月7日（水）八尾市立西山本小学校において人権教育部講演会があり、教職員を対象に「南太平洋における歯科医療奉仕活動と青少年育成」と題して講演を行いました。その後、ヴァヌアツ共和国の小学校との絵画の交流をお願いしたところ、快く引き受けて頂きました。7月の活動の際、西山本小学校の生徒が描いた絵、折り紙、手紙、写真をヴァヌアツ共和国のタンナ島ラナグル小学校にプレゼントを行いました。

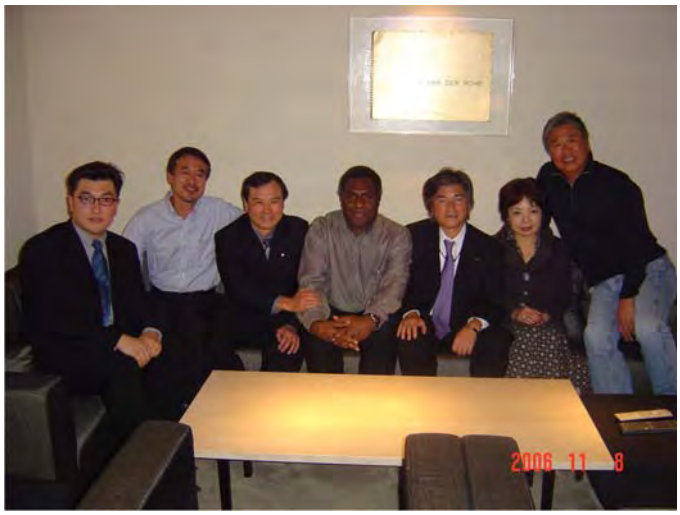
又、ラナグル小学校の生徒の絵と手紙を西山本小学校にいただきました。これにより両校の絵画交流がスタートしました。

今年度は西山本小学校の生徒に白地のこいのぼりにそれぞれ好きな絵を描いてもらい、7月の活動時にラナグル小学校に持っていきます。又、ラナグル小学校にも同じく白地のこいのぼりに絵を描いてもらい、お互いの学校の校庭にこいのぼりを泳がせる計画を考えています。

こいのぼりを通じて、これからもお互い相互理解のもと維持して交流を深めていく事を願っています。

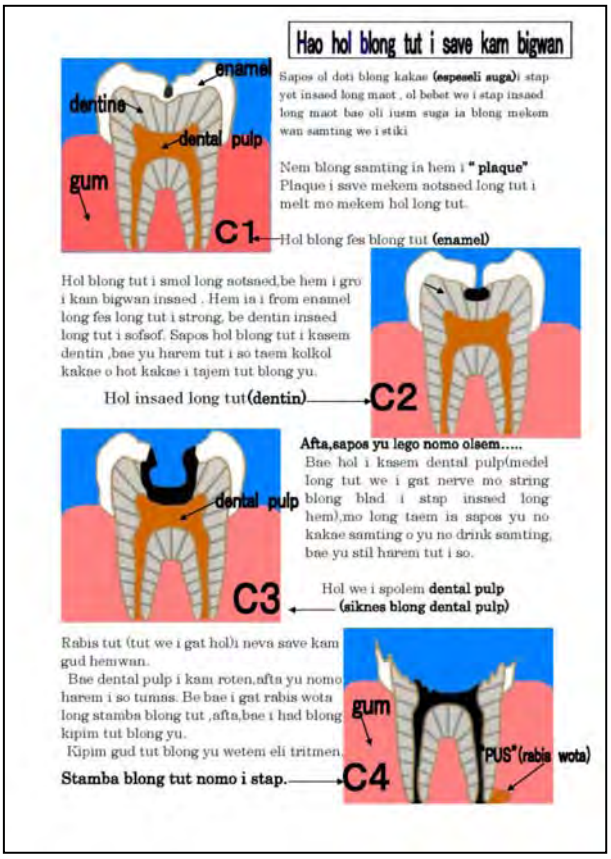
4-3 JICA

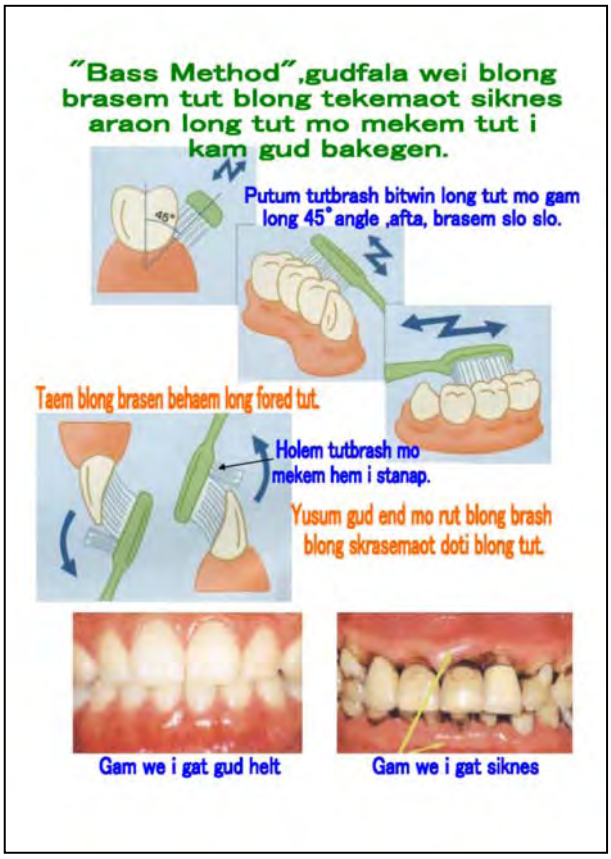
ジャイカ九州の主催で集団検診、病院経営、財務管理Ⅱのセミナーが9月11日～11月18日まで九州から始まり、京都・大阪と各地で行われました。
ヴァヌアツからは我々が活動を行っているタンナ島ラナケル病院の厚生管理官のイソ・ナカ氏がセミナーを受ける為、日本に来られました。
11月8日に来阪され、茨木ジャイカ大阪センターで滞在された折、理事の松浦、栗山、沢田代表が大阪城を案内致しました。
イソ・ナカ氏は日本訪問が初めてで道頓堀の人の多さと賑わいにびっくりされていました。
その後、ボランティアの田代さん、原さん、沢田育久さんと合流し、イソ・ナカ氏を交え、7名でミーティングを兼ねて心斎橋で会合を行い、親睦を深めました。

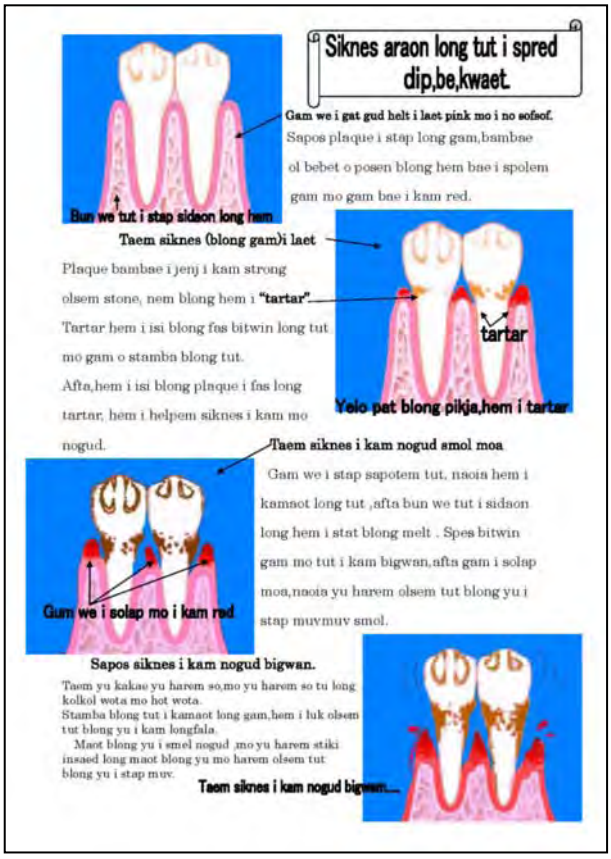


4-4 ヴァヌアツへのポスターの寄付

ハグルマ封筒株式会社様のご支援により、ヴァヌアツ共和国へ歯科衛生プログラムの一環として口腔衛生啓蒙ポスターをビシュラマ語、英語、フランス語で各1000 部ずつ寄付しました。







5　国内活動

5-1　大阪船場ロータリークラブ

毎年、大阪船場ロータリークラブの青少年委員会と社会奉仕委員会の活動として、大阪YMCA国際専門学校において、学生を対象に代表理事沢田が「ボランティア～ある日本人歯科医師の取り組み～」をテーマとして講演、ならびにパネルディスカッションを行い、学生の青少年育成に寄与しました。
下記は学生達のレポートです。

ロータリークラブ交流セミナー　レポート
大阪 YMCA 国際専門学校　英米語学科1年　國定梨菜

基調講演・パネルディスカッションを通じで学んだこと

「可哀相な人に無料で何かをしてあげること」これが私の思っていたボランティアでした。しかし澤田先生のお話を聞いて自分の考え方をはずかしく思いました。実際に映像を見てみると、現地の人たちは楽しそうに笑っていました。こんな笑顔の人たちを可哀相というのは間違っていると気付きました。私が一番心に響いた言葉は、ボランティアというのは『Give&Give』なんだということです。人のために何かをすると必ず何かは返ってくるんだなということが分かりました。めぐまれない国の人たちはボランティアをしたお返しに心の豊かさを教えてくれるという言葉にも自分が気付かなかったボランティアというものを学ばさせていただきました。今回のセミナーで自分が今まで気付かなかったことを教えていただきました。

セミナーの感想

ボランティアをするということは自分には関係ないことだと考えていました。しかし「自分たちにできることは？」という質問に対する「心をもらえるだけで十分」というお言葉にすこし驚きました。「ぜひボランティアを経験して下さい」私はこう言われると思ったからです。人々のことを考えるだけでボランティアになるんだと思いました。それを借金しながらも実行をしている先生は本当にすごいなぁと感じました。自分にできる小さなことからはじめていけば世界に通がると教えていただきました。また先生が仰った「愛の気持ちを持って人と接するとうまくいく」という言葉を心に残していきたいです。自分のボランティアに対する気持ちを考え直したいです。

ロータリークラブ交流セミナー レポート

大阪 YMCA 国際専門学校 ホテル学科1年 金菊花

基調講演・パネルディスカッションを通じで学んだこと

私はいつも自分の都合によって何かをやって来ました。でも、ボランティアのスタッフたちの話を聞いていろいろ自分を考え直しました。お金の余裕や時間の余裕とがあったからこそボランティアができると思いました。この世界には、愛が存在すると言う事です。誰にでもいつも愛の気持ちを持って彼らと接したら、お互いに共通する物があるという事を学びました。

セミナーの感想

黒人の子どもたちの映像を見た瞬間、私はいい環境、いい社会に恵まれているなあと強く感じました。と共に、自分自身が恥ずかしく感じられました。苦しんでいる人たちがそんなに多いのに今、いい社会に恵まれて自分が好きな物、好きな事しながら、なんでその人たちは手を貸せないのかと思われました。ところで、「ボランティアの活動を動かせるのは職業だ。自分が好きになれる仕事はない。目の前の仕事を一生懸命やってそれが好きになることだ」とおっしゃった言葉がすごく心の中に当たられました。仕事の大切さが感じられました。

ロータリークラブ交流セミナー レポート

大阪 YMCA 国際専門学校 国際ホテル学科2年 ノ トゥエ トゥエトゥー

基調講演・パネルディスカッションを通じで学んだこと

私は今回の講演に出席して、大変よかったと思います。澤田先生のお話をきいて、人間は人間らしく生きる事、人は生きるではなくて、生かされているに感動しました。ボランティアの仕事は決して、楽ではないですが、ボランティアをする皆の共通点は自分達の事を素直に受け入れている人々の笑顔が好き、そういうことから幸せを感じる、だからこそボランティアの仕事を継続していることです。お金がなくても、時間がなくて、そのボランティアの仕事をしているのはとても偉いと思いました。自分も将来人の為に役に立ちたい気持ちで、出来ることは何でもしてあげたいとあらためて思いました。

セミナーの感想

今日は貴重なお話、どうもありがとうございました。私もこの映像を見て、ミャンマーの事を思い出しました。ミャンマー人として日本に留学しに来れたのは、確かに色々な面にめぐまれているからです。しかし、世界の中には苦しんでいる人、食事を十分にとれていない人々がたくさんいます。その人の為にわたしたちは手をかしてあげなければなりません。そして人へのおもいやり心が大事さが強く感じました。そしてロータリークラブがもっともっと大きくなり、メンバーもたくさん増え世界中にあるまずしい国の人々の為にボランティア活動を続けることが出来ますように、神様にお祈りしてあげています。

5-2 その他の講演

- 2006年6月7日　　八尾市西山本小学校において人権教育部講演会
  「南太平洋における歯科医療奉仕活動と青少年育成」について講演
- 2006年6月14日　　大阪咲洲ロータリークラブにおいて卓話
- 2006年10月2日　　大阪船場ロータリークラブで卓話
- 2007年2月19日　　大阪船場ロータリークラブで卓話

6　学術報告

報　告:吉竹　弘行

阪神大震災の翌年、ある会合で当時の南太平洋に歯科医療を育てる会の存在を知り、いろんな国へ行ってみたかった小生は興味本位以外の何物でもない思いで参加する事にしました。それが J.D.M.との、そして澤田宗久先生との出会いでした。あれから早10数年、色々なぶつかり合いや楽しいことがありましたが、どうにか今日まで継続してこられたのは他の協力者の方々のお蔭と感謝しています。 特に澤田先生には私自身が後輩であるにもかかわらず好き勝手な事を言い続けてきましたが、怒りもせず話を聞いていただいたことは有難かったと思っています。澤田先生の人格のなせるものか、はたまた小生の人格の素晴らしさなのかよく判りませんがたぶん前者なのでしょう。

この10年でヴァヌアツもすっかり様子が変わってきました。マスコミに取り上げられる機会も多くなりポートヴィラでもここ数年はときどき日本人を見かけます。しかし私自身はできればヴァヌアツは昔のヴァヌアツのままで置いてあげた方が幸せな様にも思えます。

これから先、私がどの様な形で J.D.M.のお役に立てるか、わかりませんが、背伸びすることなくできる範囲でお手伝いをさせて頂き、又かかわっていきたいと考えています。最近、ジョン・カルキから手紙が来ました。手紙を開けた瞬間、ウルビブの匂いがした気がしました。 人生には「たら」「かな」があるとよく言われますが、澤田先生をはじめ、J.D.M.との出会いがなければあの匂いを知ることはなかったんだと思います。皆様に感謝します。

データに関して

JDM 理事の栗山氏の多大な協力のもと、試行錯誤を繰り返し、JDM 歯科検診システムが作成された。
2007年4月末現在、過去の検診を行った子供たちの DATA を入力中である。
この DATA の入力が終了すれば、それを基に色々な分析を試みたいと考えている。
以下にその例を示す。

① 各学校ごとの DMFindex を数値化しているが、ほとんどの児童がカリエスフリーであっても、何人かの児童のカリエス指数が多ければ、当然 index の数値は大きくなる。では、カリエスの多い特定の児童を除いた DMFindex はどの程度になるのか、その数値を出してみたい。

② カリエスの多い児童が特定できればそのカリエスリスク高い子供達にターゲットを絞って観察続けていきたいと考えている。例えばリスクの高い子供達の食生活の分析やあるいは、唾液緩衝能、更には両親の口腔内状態までさかのぼって調べてみればカリエスの多さとの因果関係が見い出せる。

③ ヴァヌアツ共和国においてはマレクラ島とタンナ島の2つの島に於いて、検診活動並びに啓蒙活動を行っているが、実施しているメンバーは同一ではない。
もし DATA の差が2島間で大きくなっているとすれば、その原因も考えてもよいと思っている。
そして検診方法等も画一性のあるものにして行うことを考えている。
将来的にはヴァヌアツとフィリピンという大きく距離の離れた2つの地域の DATA を比較することで、人種間によって何か興味のある事実も見いだせるかもしれない。

いずれにせよ、DATA の入力がしっかりと出来ればその DATA を基にいろいろな可能性が広がっていく事は間違いない。

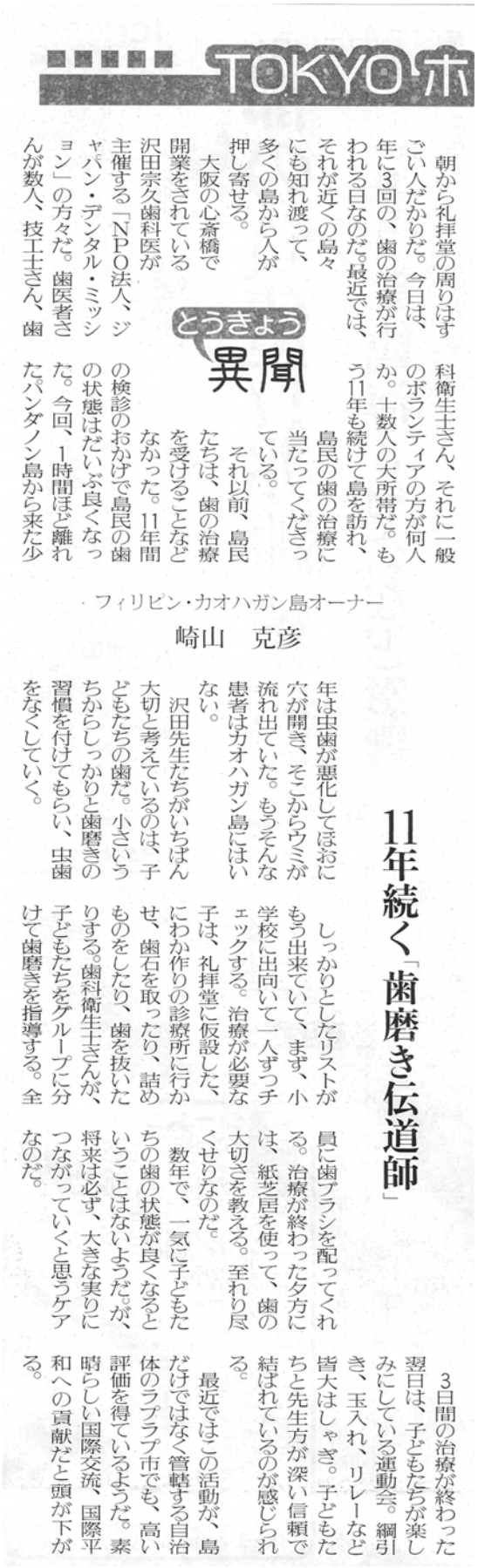
最後にこのソフトの開発にご尽力いただいた栗山氏とベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ株式会社の社員の皆様に感謝の意を表したいと思います。

7　メディア

フィリピン・カオハガン島のオーナー崎山氏の記事

2006 年 12 月 21 日讀賣新聞掲載記事

NPO法人「南の島から」の要請依頼により、11年前からフィリピン共和国、カオハガン島において、年3回にわたり、島民の口腔衛生向上のため、歯科医療奉仕活動と文化交流を行っている。



TOKYO ホ

とうきょう異聞

フィリピン・カオハガン島オーナー
崎山　克彦

11年続く「歯磨き伝道師」

朝から礼拝堂の周りはすごい人だかりだ。今日は、年に3回の、歯の治療が行われる日なのだ。最近では、それが近くの島々にも知れ渡って、多くの島から人が押し寄せる。

大阪の心斎橋で開業をされている沢田宗久歯科医が主催する「NPO法人、ジャパン・デンタル・ミッション」の方々だ。歯医者さんが数人、技工士さん、歯科衛生士さん、それに一般のボランティアの方が何人か。十数人の大所帯だ。もう11年も続けて島を訪れ、島民の歯の治療に当たってくださっている。

それ以前、島民たちは、歯の治療を受けることなどなかった。11年間の検診のおかげで島民の歯の状態はだいぶ良くなった。今回、1時間ほど離れたパンダノン島から来た少年は虫歯が悪化してほおに穴が開き、そこからウミが流れ出ていた。もうそんな患者はカオハガン島にはいない。

沢田先生たちがいちばん大切と考えているのは、子どもたちの歯だ。小さいうちからしっかりと歯磨きの習慣を付けてもらい、虫歯をなくしていく。

しっかりとしたリストがもう出来ていて、まず、小学校に出向いて一人ずつチェックする。治療が必要な子は、礼拝堂に仮設した、にわか作りの診療所に行かせ、歯石を取ったり、詰めものをしたり、歯を抜いたりする。歯科衛生士さんが、子どもたちをグループに分けて歯磨きを指導する。全員に歯ブラシを配ってくれる。治療が終わった夕方には、紙芝居を使って、歯の大切さを教える。至れり尽くせりなのだ。

数年で、一気に子どもたちの歯の状態が良くなるということはないようだ。が、将来は必ず、大きな実りにつながっていくと思うケアなのだ。

3日間の治療が終わった翌日は、子どもたちが楽しみにしている運動会。綱引き、玉入れ、リレーなど皆大はしゃぎ。子どもたちと先生方が深い信頼で結ばれているのが感じられる。

最近ではこの活動が、島だけではなく管轄する自治体のラプラプ市でも、高い評価を得ているようだ。素晴らしい国際交流、国際平和への貢献だと頭が下がる。

国際渉外室

ボランティア初体験

—ヴァヌアツ—

国際渉外室員　山本　幸夫

15年程前、JAPAN　DENTAL　MISSON（特定非営利活動法人）の一員として、初めて南太平洋の島国・ヴァヌアツ共和国を訪れました。首都ポートビラのあるエファテ島をはじめ大小80余りの島々からなる人口22万人程の国です。

エファテ島や遠洋漁船が立ち寄るサント島、活火山のあるタンナ島は、外国人観光客も多く近代文化の影響を受けていますが、他の島々だは未だ近代化の波に流されていない人達も多く住んでいます。

私達が無料の診療所を開いたのは、ポートビラから小型飛行機で1時間程のところにあるマレクラ島のノルスープという集落の病院でした。海に面して建つ平屋の病棟が6棟程並ぶ病院で、フランス人の医師がボランティア団体から派遣されていました。私達が来ることはラジオ放送で知らされていたようで、昼前に着いた時には既に30人程の人々が庭や木の下で待っていました。

急いで荷を解き治療（当時は抜歯と義歯作製のみでした）を始めましたが、数名が終わったところで昼休みになりました。病院の薬剤師でもあり看護師でもあるマイク・タイソンのようなニ・ヴァヌアツ（ヴァヌアツ人をこう呼びます）のエドモン・ディックが「今朝の治療はこれで終わり。また午後に来て下さい」とアナウンスします。中には村の青年に連れられて、ボートと徒歩で2日かけて来たという盲目の老人もいましたが、皆静かに何処かに消えて行きました。

一週間、私達はよく働きました。それでも最終日に20人程が残ってしまいました。朝市が立つ日で、いつもより早く始めたのですが、正午の飛行機に乗るためには荷造りも必要だし、空港（ただの原っぱに小屋がひとつあるだけですが）まで15分かかることを考えながら、11時頃まで治療を続けました。結局10人程が治療できずに終わりました。

エドモン・ディックが言います。「今年の治療はこれで終わり。また来年来て下さい」

人々の反応は「また午後に来て下さい」と聞いた時と同じでした。

何もない不便極まりない環境下で、技工士さん達は寝る間も惜しんで義歯を作る過酷な一週間でしたが、ニ・ヴァヌアツと接するだけで大切な何かを分けてもらったような素敵な経験でした。

ヴァヌアツ国内には3名の歯科医師がいます。

キリバス人、オーストラリア人、ベルギー人でニ・ヴァヌアツはいません。デンタルセラピストという歯科医師と歯科衛生士の間のような資格を取るためにはフィジーかオーストラリアに留学するしかなく、まず、不可能です。

ヴァヌアツ政府は日本の歯科医師免許を認めています。南国の最後の楽園で歯科医院の開業はいかがですか？

国際渉外室

ボランティア活動について

―JDMの活動・再びヴァヌアツについて―

国際渉外室員　山本　幸夫

Mr.John Kalki　REGENVANU
Uripiv
Malekula
Vanuatu

南太平洋の島国、その中の小さな島ウリピブに住むジョン・カルキ氏に手紙を送るには、この4行で十分です。

カルキ氏はNPO法人・JDM（JAPN　DENTAL　MISSON）の活動地のひとつである Norsup 病院の前責任者で、現在は自分の生まれた島に帰り、学校と職業訓練所を立ち上げ地域のために働いています。JDMは彼の活動を、資金援助も含め強くサポートしています。

彼への手紙がたった4行で届くということは何かを暗示しています。それは地域の中での個人の大きさではないでしょうか。

大阪という大都市に住む歯科医師が地域に働きかけた際の反響とヴァヌアツとのそれは何倍もの差があります。個人の善意がストレートに生きてきます。21世紀の大阪で、歯科医師として地域に貢献している私達も、自らの持つ知と財と気力の一部を、また、最も分け与えるのが難しい時間を割いて別の地域に住む人々に提供することで、歯科医師としての活動に大きな幅が生まれてくると思います。

ヴァヌアツやフィリピンの無歯科医地区で無償歯科診療を実地している澤田宗久先生のように長年に渡りボランティア活動を続けることは容易ではありません。その難しさ故に一歩が踏み出せずにいる人がほとんどだと思います。

私が10年程在籍したボランティアの会を辞めるにあたって、その会長から言われたことが今も強く私の心に残っており、ボランティア活動のみならず人生の様々な選択の場で思い出しております。

曰く、ボランティア活動は様々あり、世の中の全てのボランティア活動に興味を持ったり責任を感じる必要はありません。自分が選んだ以外の活動に興味が無くても良いのです。参加の仕方はいろいろです。活動の内容や自分の経験を友人に話したり、小額の寄付をすることも大きな援助なのですから。

JDMの連絡先は
（TEL）:06-6245-8733
（FAX）:06-6245-8734
Eメール：jdm@themis.ocn.ne.jp

JDMの活動報告

特定非営利活動法人
ジャパン　デンタル　ミッション
代表理事　澤田宗久

ジャパン・デンタル・ミッション（JDM）の活動はヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年3回の計5回行っています。

ヴァヌアツの首都はポートヴィラで、以前はイギリスとフランスの統治国家でしたが、1980年に独立をしました。最初、私個人として国外活動を始めたのは独立間もない1983年の頃のことです。当時はライフラインの無い所からのスタートでしたが、現在では少しずつではあるが近代文化・文明が入り場所によっては電気が通じている所もあります。我々の活動拠点は首都から北方のマレクラ島と南方のタンナ島で両方共、歯科医師が居ない所で、JDMの活動は島民のみならず、ヴァヌアツ共和国厚生省にとっても大きな期待をされています。

2004年のヴァヌアツ共和国厚生省とJDMとで将来活動を拡大発展するための調印式を行いました。その目的は…

1、 ヴァヌアツ国民の口腔衛生向上のために患者個人や厚生省に対して無償で歯科医療を行う
2、 人材育成として、教師を中心に教育機関において口腔衛生向上プログラムを遂行する
3、 島々の環境の違いと児童の食事摂取状況をもとに、それぞれの口腔環境との関連を調査する

調印式の様子、写真右は厚生省長官ジョージ・タリオ氏

調印式において、厚生省長官ジョージ・タリオ氏は「今回の調印式をきっかけにヴァヌアツ共和国の口腔衛生活動は重大な一歩を踏み出した。22年にも渡るボランティア活動に対して厚生省としても調印することは重要であり、ヴァヌアツ国民の為にもJDMと協力関係を結ぶ必要がある。」と語っていました。

その為に毎年活動時には厚生省とミーティングを行い、昨年ヴァヌアツ政府の依頼により教育省と厚生省とのビッグプロジェクトとしてヴァヌアツ共和国の全校小学生36,238名を対象に口腔衛生指導を行うための歯ブラシ38,000本と口腔衛生啓蒙ポスター2,500枚、教材、文具、運道具、子供服などを20フィートのコンテナにいっぱい詰め込んで船便でヴァヌアツ政府に寄付を行いました。

職業訓練学校の生徒達と共に

今年春そのプロジェクトがスタートします。ヴァヌアツの教育機関は非常にタイトで厳しく公立学校で落第をすると、日本と違い二度と復帰ができないシステムになっています。そのために学校に行けなくなった子ども達や貧困のために学費が払えない子ども達のために私立の職業訓練所があります。そこでは建設や農業などを教え、手に職を付け自立した生活をサポートしています。

我々は数年前からマレクラ島沖のウリピブ島において、ナイン・オルセル・ルーラル・トレーニングセンター（N・O・R・T・C）の学校建設に協力し、校舎・図書館・倉庫・教材

等の寄付を行っています。カリキュラムは大工・農夫・栄養士・裁縫を教育する私立学校です。現在男女合わせて24名の生徒が皆熱心に勉強しています。

JDMの日本国内でのあり方として青少年の育成も加えられています。活動メンバーに日本でイジメに会った子どもや不登校になり自分の将来に目的意識をなくしつつあった学生が、ボランティアとして参加し、大自然のなかで活動を通して自分自身を見つめ、自分達は生きているのではなく、生かされていることを悟るようになりました。

この経験を生かし帰国後、素直に学校に通学し、大学にも進学したメンバーもいます。

このように、我々は歯科診療以外に多方面にわたり幅広く活動を行っています。2005年ヴァヌアツ共和国は独立25周年にあたり、7月30日に独立25周年式典が首都ポートヴィラで行われ、大統領から招待を受け我々のメンバーが式典に参加することができました。

このことを励みとして、今後JDMの活動が社会性を持ち世界平和のために微力ながらも貢献していきたいと願っています。フィリピン・カオハガン島での活動報告は又の機会にさせて頂きます。

澤田宗久先生/(略歴)1973年大阪歯科大学卒業、1977年澤田歯科開業(大阪市中央区)、1983年ヴァヌアツ共和国において活動を開始、1995年「南太平洋に歯科医療を育てる会」をNGOとして設立、会長に就任。1996年フィリピン共和国カオハガン島において活動を開始、2003年特定非営利活動法人ジャパン　デンタル　ミッション設立、代表理事に就任。現在、両国において医療奉仕活動を続けている。

8　ジャパン　デンタル　ミッションについて

Year	沿　革
1982	現在、当会代表理事の沢田　宗久が社団法人南太平洋協会の会員で、そこでヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏とともに“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大から、「南太平洋に歯科医療を育てる会」をNGOとして沢田　宗久が設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島在住の崎山克彦氏からの依頼を受け、フィリピン共和国カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年3回の活動を継続している。若い層の人材も増え、2001年に青年会が発足した。
2003	NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション誕生
2004	ヴァヌアツ共和国厚生省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン　デンタル　ミッション活動方針

1.　歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2.　文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国共に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い文化の交流を図っています。

3.　生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

・文房具、スポーツ用品の寄贈

絵画の交流と同時に文房具やスポーツ用品の寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

9　協力者名簿

支援協力

- NPOセンター
- (株)TKX
- 青木林業
- (株)アドダイセン
- (株)ウィンガード(宮前)
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- (株)オクウチサービス
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- (株)北野商店
- 牛乳石鹸共進社株式会社
- (株)清原
- (株)工藤産業
- 沢井製薬株式会社
- ｽﾎﾟｰﾂﾈｯﾄﾜｰｸｼﾞｬﾊﾟﾝ
- 甚田会計事務所
- 整水工業株式会社
- 太陽総合合計事務所
- (株)太洋旅行
- つるや株式会社
- (株)不二印刷
- 南総工業(株)
- (株)ニッタハウス
- (株)樋口材木店
- 福徳合成工業
- 京呉服　宮下
- 八尾ロータリークラブ
- (株)八千代オート
- (株)陽春園

物品提供

- Greempath Corporation
- (株)UHA味覚糖
- アベ･ラベリング
- (株)ロジティックス
- (株)サクラクレパス
- (株)山貴産業
- サント電気株式会社
- 曽和繊維工業(株)
- 大日本除虫菊株式会社
- (株)タナベスポーツ
- 有限会社トリビ
- (株)トキワ
- (株)ナカガワ
- ハグルマ封筒(株)
- (株)林
- フーセンウサギ株式会社

歯科関連

- DENTRADE
- (株)尾崎歯材
- 川西市歯科医医師会
- ｸﾞﾗｽｺ･ｽﾐｽｸﾗｲﾝ株式会社
- (有)ｻｶｶﾞﾐﾃﾞﾝﾀﾙｻﾌﾟﾗｲ
- 澤田歯科
- サンスター株式会社
- ジャックス株式会社
- (株)スモカ歯磨
- 住之江歯科医師会
- 嶽北歯科
- 中央区南歯科医師会
- 西澤歯科医院
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 白水貿易株式会社
- 浜田デンタルサプライ
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- (株)モリタ
- (株)矢田化学
- 山本歯科商店
- 吉竹歯科医院

ＩＴ　関　連

- (有)システムつう
- ﾍﾘﾃｯｸ･ｱｲｺﾆｯｸｽ･ﾍﾞﾝﾁｬｰｽ(㈱)ﾞ
- ユー･エフ･オー株式会社

個人支援協力

- 池内　正彦
- 内田　千代子
- 裏南　好太郎
- 大嶋　捷正
- 太田　暁子
- 岡本　悦子
- 斧原　秀夫
- 欠野　アズ沙
- 柏木　治行
- 片岡　清夫
- 神谷　保
- 川田　修弘
- 北村　容子
- 工藤　武雄
- 河野　比子
- 小島　常男
- 阪上　勝利
- 阪本　妙子
- 崎山　克彦
- 沢井　武清
- 清水　美代子
- 白井　淳二
- 鈴木　しげ子
- 世良　綾子
- 園山　春二
- 竹林　和彦
- 武安　俊子
- 田坂　修
- 田中　愛子
- 中野　栄津子
- 中原　道朗
- 西　　京子
- 西尾　隆善
- 西澤　永子
- 西原　則子
- 西原　正起
- 西村　文延
- 新田　昌男
- 長谷川誠太郎
- 林　　怡久雄
- 早嶋　健
- 東芝　茂樹
- 樋口　淳一
- 平田　実
- 福本　幸一
- 帆玉　定
- 松谷　廣信
- 八津川信子
- 山田　一郎
- 山田　登紀子
- 吉井　照子
- 吉本　晴彦

50音順

10　2007年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ http://www5.ocn.ne.jp/~jdm をご覧下さい。

日　程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日　程	締切日
7月沢田チーム	2007年　7月14日～　7月23日	2007年　5月10日
9月近藤チーム	2007年　9月16日～　9月24日	2007年　7月15日

フィリピン共和国		
チーム名	日　程	締切日
9月富田チーム	2007年　9月15日～　9月19日	2007年　7月　5日
11月沢田チーム	2007年11月20日～11月25日	2007年　9月10日
2月平田チーム	2008年　2月　9日～　2月13日	2007年12月　1日

募集人員

歯科医師	約3名
歯科技工士	約3名
歯科衛生士	約3名
ボランティア	約3名

参加費用

	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
科　目	金　額	金　額
航空運賃　＊1	25万円前後	7万円前後
滞在費	3万円前後	なし
参加費	2万円	1万円
海外傷害旅行保険代	1万円	1万円
Tシャツ代　＊2	3千円	3千円
入会金　＊3	5千円	5千円
合計	31万円前後	9万円前後

＊1:航空運賃は時期により変動します

＊2:持ってない方のみ

＊3:入会されてない方のみ

11　役員

代表理事
沢田　宗久

副代表理事
平田　敏彦

理　事
吉竹　弘行

理　事
山田　敦

理　事
森　千代美

理　事
松浦　茂

理　事
栗山　雅行

理　事
河内　光明

理　事
田中　良明

理　事
小西　あゆみ

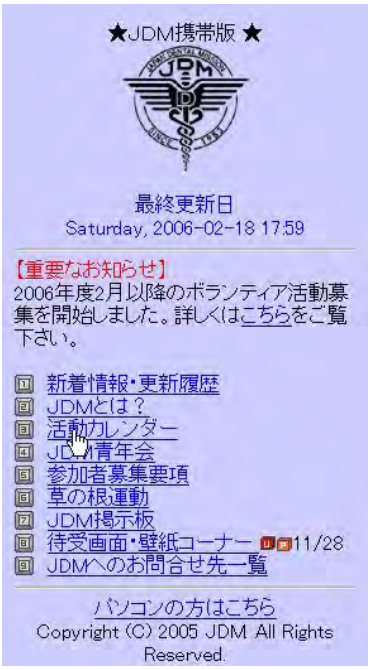
理　事
永井　利宗

理　事
内藤　徹

ホームページ

当会では、JDMオフィシャルページを開設しております。JDMの最新情報がご覧頂けます。
オフィシャルページは、パソコンと携帯からアクセスできます。
http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/にアクセスして頂きますとパソコンや携帯から接続できます。

↑パソコン版トップページ



↑携帯版トップページ

入会申込書、海外活動参加申込書などの必要書類はダウンロードできるようになっています。
必要事項を記入し、メールで送信して頂ければ、簡単に申請は済みます。

当会では、草の根の一環としてバーナー広告をホームページ上で広告します。バーナー広告を希望の方は、
154×40ピクセルでバーナーを作っていただき、当会までメールで送信して下さい。
それをパソコン版の下の段にありますバーナー広告欄に掲載させて頂きます。
詳しくは、当会までご連絡下さい。月単位や年単位での掲載ができます。募金活動の一環としても皆様方の御理解御協力宜しくお願い致します。

2007年　6月　20日　発行
発行者　NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション
〒542－0083
大阪市中央区東心斎橋1丁目3番5号　グラントピア長堀橋603号
連絡先　〒542－0085
大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28　心斎橋コアビル　澤田歯科
TEL：06－6252－0118　FAX：06－6252－5351
URL：http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html
E-mail：jdm@themis.ocn.ne.jp
＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。